

令和6年度 土木工事標準歩掛 改定概要

国土交通省 大臣官房
参事官(イノベーション)グループ

- 土木工事標準歩掛は、土木請負工事費の積算に用いる標準的な施工条件における単位施工量当り、若しくは日当りの労務、材料、機械等の規格や所要量について工種ごとにとりまとめたものです。
- 「施工合理化調査等の実態調査」の結果を踏まえ、新規工種の制定及び既存制定工種の改定を行いました。

→ 令和6年度は、計9工種の改定を実施

(1) 新規制定 (地整運用歩掛の標準歩掛化等) 【3工種】

- ①排水材設置工 (構造物背面排水)、②仮締切工 (砂防コンクリート締切)、③舗装版削孔工 (アスファルト舗装版)



排水材設置工



仮締切工 (砂防コンクリート締切)



舗装版削孔工

(2) 使用機械、労務等の変動により改定を行う工種 【5工種】

- ①薬液注入工、②鋼管・既製コンクリート杭打工 (中掘工)、③かごマット工 (多段積型)、
④集排水ボーリング孔洗浄工、⑤トンネル照明器具清掃工



鋼管・既製コンクリート杭打工 (中掘工)



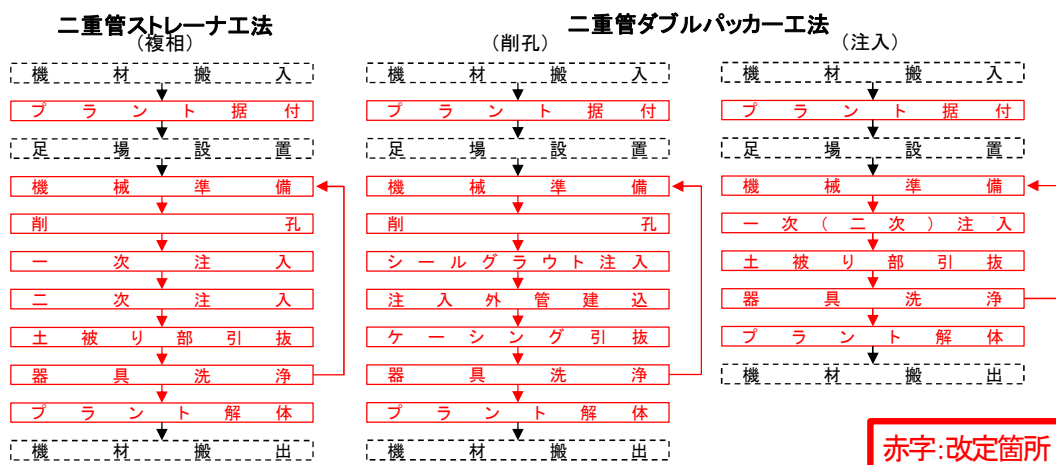
かごマット工 (多段積型)

(3) 移動時間を踏まえた制定を行う工種 【1工種】

- ①泥水運搬工 ※新規制定工種

本工法は、地盤改良工法の一つで、薬液を粘土、シルト、砂質土等の地盤に注入し、地盤の透水性の減少及び地盤の強度（固結度）の増加を図る工法である。

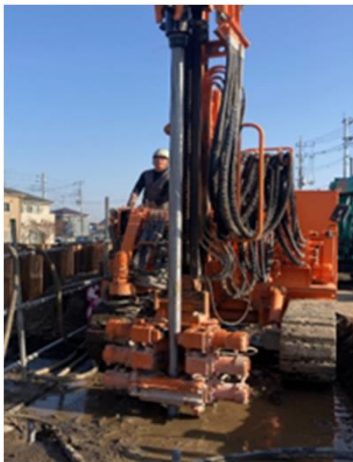
【施工フロー】



赤字:改定箇所



二重管ストレナーナ工法 (複相) 施工状況



二重管ダブルパッカー工法 削孔作業状況



二重管ダブルパッカー工法 注入作業状況

【主な改定概要】

・ 諸雑費計上の使用機械・機材の規格及び保有区分の見直し

5. 施工歩掛

5-1 二重管ストレナーナ工法

5-1-4 諸雑費

二重管ストレナーナ工法の1本当り諸雑費は、グラウト流量・圧力測定装置、送水ポンプ、送液ポンプの損料、薬液ミキサ、貯水槽の賃料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額(水ガラス積算流量計は除く)に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表5.4 二重管ストレナーナ工法の諸雑費率 (%)

| 工法 | セット数 | 諸雑費率 |
|------|------|------|
| 複相方式 | 2 | 22 |
| | 4 | 24 |

5-2 二重管ダブルパッカー工法

5-2-6 諸雑費

二重管ダブルパッカー工法削孔時の諸雑費は、グラウトポンプ・グラウトミキサ・送水ポンプ・貯水槽の損料及び電力に関する経費等の費用であり、一次注入及び二次注入時の諸雑費はグラウト流量・圧力測定装置・グラウトミキサ・パッカー加圧ポンプ・送水ポンプ・送液ポンプ・貯水槽の損料及び電力に関する経費等の費用であり労務費、機械損料及び運転経費の合計額(水ガラス積算流量計は除く)に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

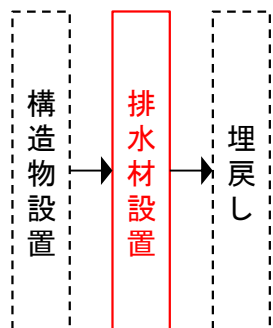
表5.12 二重管ダブルパッカー工法の諸雑費率 (%)

| 条件 | セット数 | 諸雑費率 |
|----------|------|------|
| 削孔 | 1 | 8 |
| | 2 | 6 |
| 一次注入 | 4 | 25 |
| 二次注入 有機系 | 4 | 25 |
| 二次注入 無機系 | 4 | 21 |

構造物（橋台、擁壁、ボックスカルバート等）埋戻し背面のコンクリート面等において、湧水及浸透水等の排水を促すために設置する帯状の排水材を設置する工法である。

【施工フロー】

赤字: 制定箇所



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。



立体網状体排水材例



メッシュチューブ型排水材例

【主な制定概要】

- 排水材規格: 幅200mm以上600mm以下、厚20mm 以上50mm以下の場合に適用
- コンクリート釘、接着剤、固定金具等を用いて固定する方法を標準

3. 施工歩掛

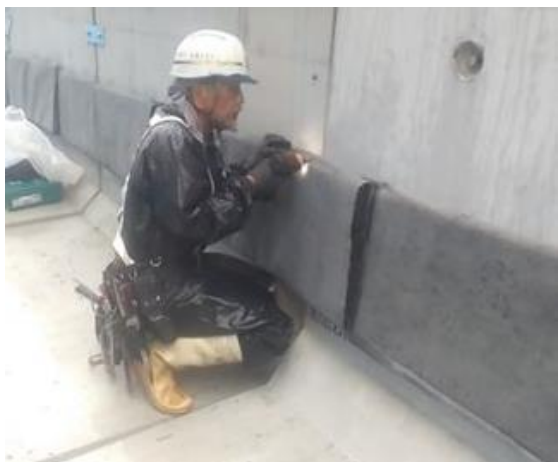
排水材の設置歩掛は、次表を標準とする。

表3.1 排水材設置歩掛

(10m当り)

| 製品幅(mm)及び厚(mm) | | 幅 200以上600以下 厚 20以上 50以下 | |
|----------------|----|-----------------------------|--|
| 名称 | 単位 | | |
| 土木一般世話役 | 人 | 0.03 | |
| 普通作業員 | 人 | 0.26 | |
| 排水材 | m | 10.5 | |
| 諸雑費率 | % | 1 | |

- (注) 1. 歩掛は、現場内小運搬を含む設置作業であり、埋戻しは含まない。
 2. 排水材のロス率(重ねせ及び切断ロス)は、+0.05として上表に含まれている。
 3. コンクリート釘による固定の場合の諸雑費は、ハンマー・充電式電動ハンマドリルの損料及びコンクリート釘・固定板・座金等の費用であり、接着剤による固定の場合の諸雑費は、刷毛・接着剤等の費用であり、固定金具による固定の場合の諸雑費は、チューブ式接着剤・粘着布テープ等の費用であり、材料費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。なお、固定方法に関わらず本諸雑費率を使用できる。



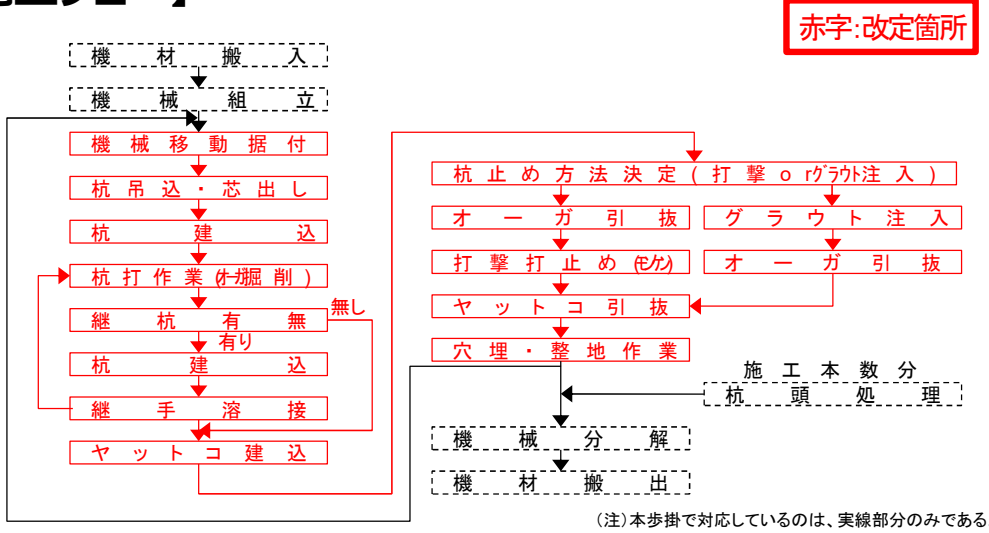
排水材設置作業状況
(コンクリート釘)



排水材設置作業状況
(接着剤)

埋込み杭工法の一つで、あらかじめ杭中空部にオーガスクリュを挿入、杭建込を行った後、削孔と同時に杭を圧入していく工法である。杭打設後は、モンケンなどにより杭を打撃し支持層に打込む方法と、グラウト材を支持層に注入し杭と一体化させる方法がある。

【施工フロー】



(注)本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。



杭打作業状況



継手溶接作業状況

【主な改定概要】

- 杭吊込・杭建込作業等に使用するクローラクレーンの排出ガス対策区分を見直し
- 掘削土の処理作業に使用するバックホウの規格、排出ガス対策区分を見直し
- クローラ式アースオーガの日当り運転時間の変動に伴い、施工歩掛を見直し

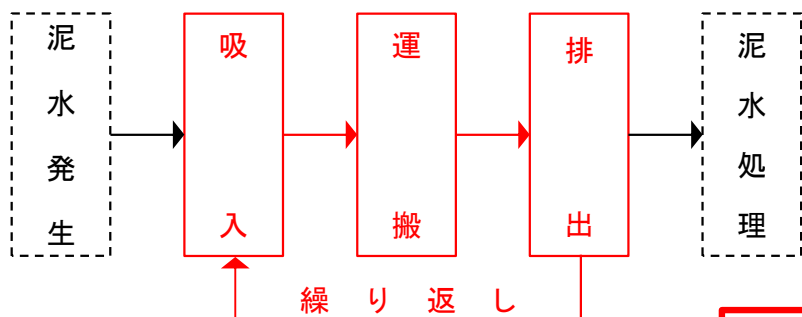
3. 機種を選定
機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種を選定

| 機械名 | 規格 | 単位 | 杭径 (mm) | | | | 摘要 |
|------------------|---|----|------------------|------------------|--------------------------|--------------|------------------------------------|
| | | | φ400以上 φ800未満 | | 杭径 φ800以上 φ1,000未満 | 杭径 φ1,000 | |
| | | | 掘削長 32m 以下 | 掘削長 32m 超え | | | |
| クローラ式 アースオーガ | アースオーガ中掘機 ・直結三点支持式 オーガ出力55kW 公称杭径φ400~1,200mm リーダ長21~33m | 台 | 1 | - | - | - | 打撃方式で 施工する場合 モンケン10tを含む |
| | アースオーガ中掘機 ・直結三点支持式 オーガ出力90kW 公称杭径φ400~1,200mm リーダ長21~33m | " | - | 1 | 1 | 1 | |
| クローラ | 油圧駆動式ウインチ ・ラチスジブ型 排出ガス対策型(第3次基準値) 50~55t吊 | " | - | 1 | 1 | - | 掘削土の処理 作業(穴及び 埋簡易な整 正を含む) |
| | 油圧駆動式ウインチ ・ラチスジブ型 排出ガス対策型(第3次基準値) 80t吊 | " | - | - | - | 1 | |
| バックホウ (クローラ型) | 標準型・超低騒音型 排出ガス対策型(2014年規制) 山積0.5m ³ (平積0.4m ³) | " | 1 | - | 1 | 1 | |

本工法は、地盤改良及び基礎工事の施工に伴い発生する泥水を、側溝清掃車を使用して吸入・運搬・排出する工法である。

【施工フロー】



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

【主な制定概要】

- 運搬距離別の日当り運搬量を設定 (DID区分設定無し、適用可能運搬距離80km以下)

3. 機種を選定
機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種を選定

| 機械名 | 規格 | 適要 |
|-------|--|----|
| 側溝清掃車 | ブロー式 ホッパ容量9.0m ³ 風量40m ³ /min | |

4. 編成人員
泥水運搬工の編成人員は次表を標準とする。

表4.1 日当り編成人員 (人/日)

| 名称 | 数量 |
|-------|----|
| 普通作業員 | 1 |

5. 日当り運搬量
泥水運搬工における日当り運搬量は、次表を標準とする。

表5.1 日当り運搬量 (m³/日)

| 運搬距離 | 数量 |
|--------------------|------|
| 7.0 km 以下 | 10.8 |
| 7.0 km 超え 14 km 以下 | 9.6 |
| 14 km 超え 22 km 以下 | 8.6 |
| 22 km 超え 31 km 以下 | 7.7 |
| 31 km 超え 41 km 以下 | 6.9 |
| 41 km 超え 51 km 以下 | 6.2 |
| 51 km 超え 63 km 以下 | 5.6 |
| 63 km 超え 77 km 以下 | 5.0 |
| 77 km 超え 80 km 以下 | 4.7 |

- (注) 1. 運搬距離は排出先までの片道距離であり、現場に戻る復路の距離が異なる際は平均値とする。
 2. DID区間の有無に関係なく適用出来る。
 3. 有料道路を利用する場合は、利用料金を別途計上する。
 4. 運搬距離が、80kmを超える場合は、別途考慮する。



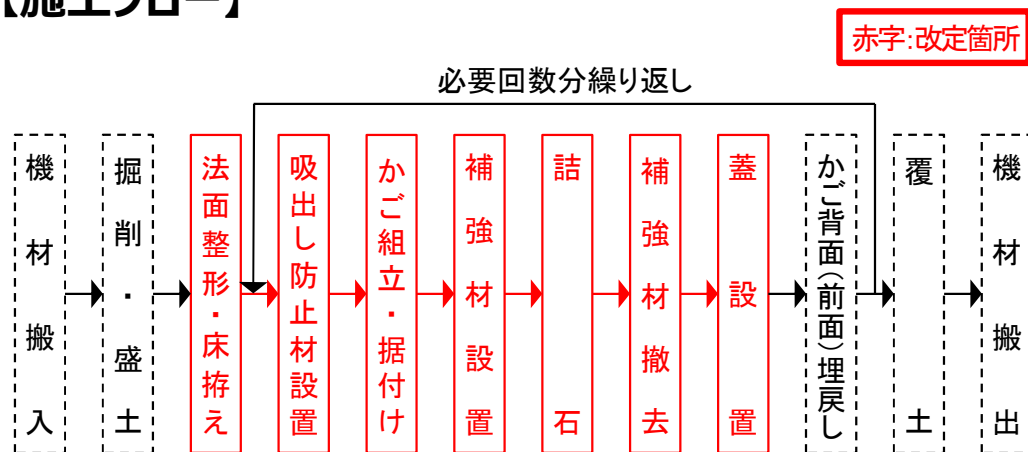
側溝清掃車全景



吸入作業状況

本工法は、河岸の浸食防止等を目的に、長方形に組み立てられた鉄線かごに栗石・割栗石等を詰めたかごマットを多段積に設置する工法である。

【施工フロー】



(注)本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。



かご組立・据付け作業状況



詰石作業状況

【主な改定概要】

- 詰石作業に使用するバックホウの規格、排出ガス対策区分を見直し
- 使用機械（規格）の変動による施工歩掛の見直し

- 機種を選定
機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種を選定

| 機械名 | 規格 | 単位 | 数量 | 摘要 |
|------------------|---|----|----|----|
| バックホウ (クローラ型) | 標準型・超低騒音型 排出ガス対策型(2014年規制) 山積0.8m ³ (平積0.6m ³) | 台 | 1 | |

- (注)1. バックホウ(クローラ型)は、賃料とする。
2. 現場条件により、上表により難しい場合は別途考慮する。

- 施工歩掛
かごマット工(多段積型)の歩掛は、次表を標準とする。

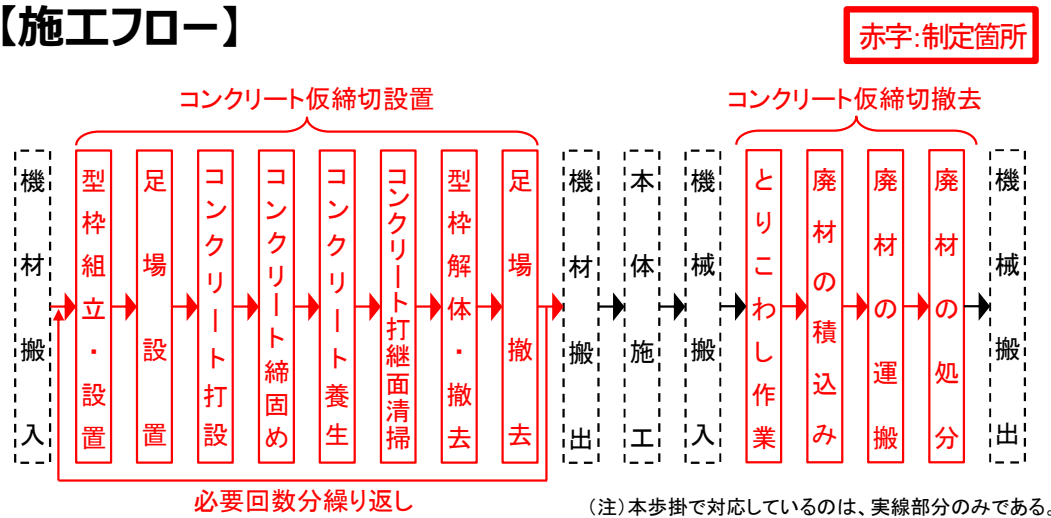
表4.1 かごマット工(多段積型)施工歩掛 (100m²当り)

| 名称 | 規格 | 単位 | 数量 |
|--------------------|---|----|-----|
| 土木一般世話役 | | 人 | 2.2 |
| 特殊作業員 | | 〃 | 3.2 |
| 普通作業員 | | 〃 | 6.6 |
| バックホウ (クローラ型)運転 | 標準型・超低騒音型 排出ガス対策型(2014年規制) 山積0.8m ³ (平積0.6m ³) | 日 | 7.7 |
| 諸雑費率 | | % | 1 |

- (注)1. 上表には、かごマット組立・据付け、詰石、吸出し防止材設置、補強材設置・撤去、法面整形・床拵えの他、蓋設置、運搬距離50m程度の現場内小運搬作業を含む。法面整形・床拵えの有無にかかわらず適用出来る。
2. 中詰用石材の石径は5~20cmを標準とする。吸出し防止材は厚さ10mmを標準とする。
なお、これによらない場合も上表は適用出来る。
3. 諸雑費は、補強材料(単管パイプ、合板等)の損料、工具類等の費用であり、労務費、機械賃料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

砂防工（本堰堤、副堰堤、床固め、帯工、水叩き、側壁、護岸）の施工に伴うコンクリートにより仮締切の設置・撤去を行う工法である。

【施工フロー】



【主な制定概要】

- 木製型枠設置・撤去、ケレンはく離剤塗布、足場設置・撤去、コンクリート打設、コンクリート仮締切撤去の施工歩掛を制定

5-1 木製型枠設置・撤去、ケレンはく離剤塗布施工歩掛
木製型枠設置・撤去、ケレンはく離剤塗布施工歩掛は、次表を標準とする。

表5.1 木製型枠設置・撤去、ケレンはく離剤塗布施工歩掛 (100m²当り)

| 名称 | 規格 | 単位 | 数量 | 摘要 |
|-------------|------------------------------------|----|------|------|
| 土木一般世話役 | | 人 | 3.9 | |
| 型わく工 | | 人 | 14.9 | |
| 特殊作業員 | | 人 | 0.85 | |
| 普通作業員 | | 人 | 8.5 | |
| ラフテレーンクレーン運 | 油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(2011年規制)・低騒音型・25t吊 | 日 | 2.3 | 機械賃料 |
| 諸雑費率 | | % | 25 | |

(注) 1. 諸雑費は、型枠用合板、型枠用金物、組立支持材、ケレンはく離剤及び電動ドリル、電動ノコギリ損料、電力に関する経費、溶接機に要する費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

7-1 コンクリート打設歩掛
コンクリート打設歩掛は、次表を標準とする。

表7.1 コンクリート打設歩掛 (100m³当り)

| 名称 | 規格 | 単位 | 1日当り打設量(m ³ /日) | | | |
|-------------|------------------------------------|----|----------------------------|--------------|--------------|---------------|
| | | | 10未満 | 10以上 30未満 | 30以上 80未満 | 80以上 140未満 |
| 土木一般世話役 | | 人 | 3.2(3.0) | 2.8(2.6) | 1.8(1.6) | 1.4(1.2) |
| 特殊作業員 | | 人 | 7.4(7.1) | 5.3(5.0) | 4.0(3.7) | 2.9(2.6) |
| 普通作業員 | | 人 | 7.7(7.2) | 6.1(5.6) | 4.8(4.3) | 3.8(3.3) |
| ラフテレーンクレーン運 | 油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(2011年規制)・低騒音型・25t吊 | 日 | 2.8(2.8) | 2.2(2.2) | 1.6(1.6) | 1.1(1.1) |
| 諸雑費率 | | % | 11(5) | 14(6) | 18(8) | 23(10) |

(注) 1. 上表の労務歩掛は、コンクリート打設・養生、打継面・岩着面のモルタル敷均し、打継面清掃等を含むものである。
2. ()の数値は、特殊養生(緑炭)やジェットヒータ養生を必要とする場合に計上すること。なお、特殊養生(緑炭)やジェットヒータ養生に要する費用は、別途考慮する。
3. 諸雑費は、スコップ、養生マット、コンクリートバケット賃料、コンクリートバイブレータ賃料、工事用水中モータポンプ損料、高圧洗浄機賃料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
4. コンクリートバケット容量は、1.0m³を標準とし、これにより難しい場合は、別途考慮する。



型枠組立
作業状況



コンクリート
打設作業状況



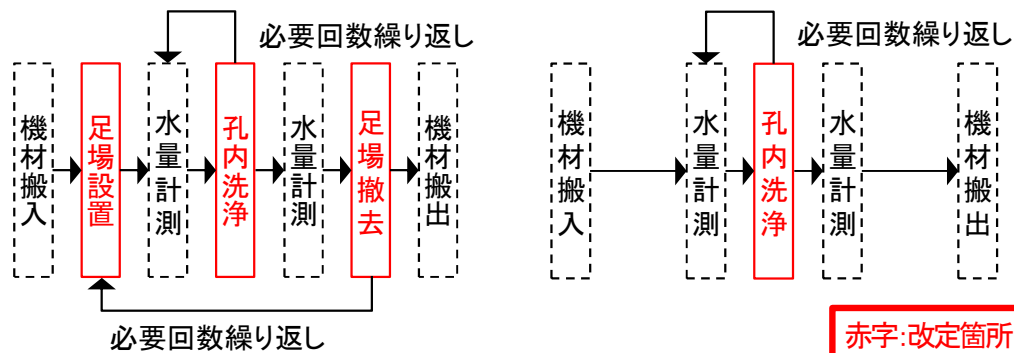
コンクリート養生作業状況

本工法は、地すべり防止施設における横ボーリング孔及び集水井内での集排水ボーリング孔（Φ30mm～Φ150mm、延長130m/本）を高圧洗浄機により洗浄する工法である。

【施工フロー】

(1) 井内作業

(2) 井外作業



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

【主な改定概要】

- ・ 洗浄作業に使用する高圧洗浄機の規格、保有区分を見直し
- ・ 使用機械の変動による日当り施工量の見直し

3. 施工歩掛

3-1 洗浄工

(1) 編成人員

洗浄工の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表3.1 日当り編成人員 (人/日)

| 洗浄工 | 土木一般世話役 | 特殊作業員 | 普通作業員 |
|-----|---------|-------|-------|
| | 1 | 2 | 1 |

(2) 日当り施工量

洗浄工の日当り施工量は、次表を標準とする。

表3.2 日当り施工量 (1日当り)

| 洗浄工 | 単位 | 数量 |
|-----|----|-----|
| | m | 230 |

(3) 諸雑費率

諸雑費は、高圧洗浄機(ノズル、高圧ホース含む)賃料、工事用水中モータポンプ賃料、軸流ファン(軸流式)の損料、水槽の損料、電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。なお、軸流ファン(軸流式)は、井内作業の場合に計上する。井外作業の場合は、()内の率を乗じた金額を上限として計上する。

また、高圧洗浄機は、「工事用・モータ駆動 吐出量15～20ℓ/min 圧力20MPa」を標準とし、現場条件等により、これにより難しい場合は、別途考慮する。洗浄水は、沢水を工事用水中モータポンプにて採取し、水槽に貯水して使用することを標準としており、現場条件等により、これにより難しい場合は、洗浄水に要する費用を別途計上する。

表3.3 諸雑費率 (%)

| | |
|------|---------|
| 諸雑費率 | 16 (15) |
|------|---------|

3-2 集水井内足場工

(1) 施工歩掛

井内作業における集水井内足場の設置・撤去歩掛は、次表を標準とする。

なお、本歩掛で対応しているのは、「(2) 参考図(集水井内足場概念図)」に示す足場工である。

表3.4 集水井内足場設置・撤去歩掛

(1回当り)

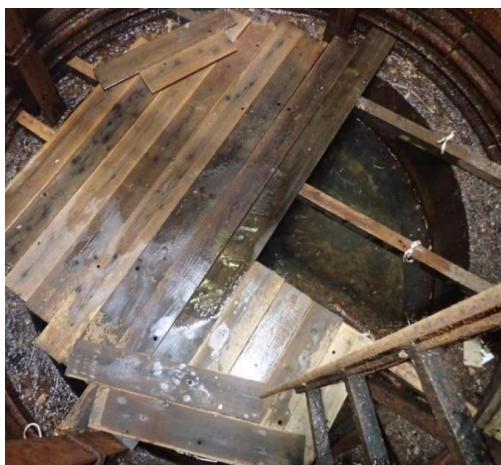
| 名称 | 単位 | 数量 |
|---------|----|------|
| 土木一般世話役 | 人 | 0.43 |
| とび工 | 〃 | 0.72 |
| 普通作業員 | 〃 | 0.51 |
| 諸雑費率 | % | 11 |

(注) 1. 諸雑費は、軸流ファン(軸流式)の損料、足場板合板、角材、安全ネット及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する

2. 上表は、足場の設置・撤去1回当りの数量であり、同一集水井内で複数の設置・撤去を行う場合は、その実施回数を計上すること。



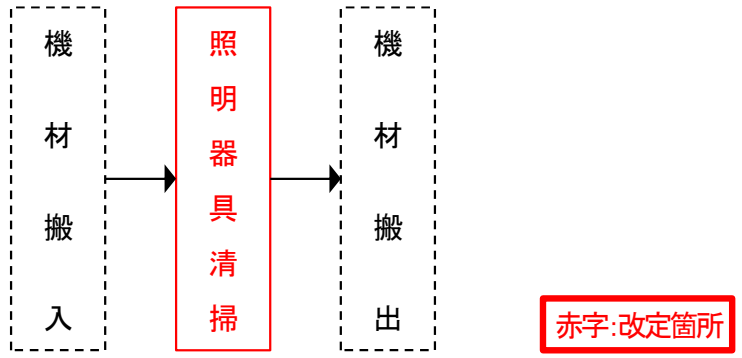
孔内洗浄作業状況(井内作業)



足場設置・撤去作業状況

本工法は、高所作業車を使用して、トンネル内に設置されている照明器具の表面及び内面を人力施工により、清掃する工法である。

【施工フロー】



(注)本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

【主な改定概要】

- 人力施工で使用する高所作業車（トラック架装）の規格、保有区分を見直し
- 使用機械の変動による日当り施工量の見直し

2. 機種を選定

機械・規格は、次表を標準とする。表2.1 機種を選定

| 作業種別 | 機械名 | 規格 | 単位 | 数量 | 摘要 |
|----------|-------|---|----|----|----|
| 表面清掃 | 高所作業車 | トラック架装・伸縮ブーム・プラットフォーム型・作業床高9.9m・積載荷重1,000kg | 台 | 1 | |
| 表面及び内面清掃 | | | | | |

(注)1. 表面清掃とは、灯具表面のみの清掃をいう。

2. 表面及び内面清掃とは、灯具表面と灯具カバーを開いて行うランプ及び反射板の清掃をいう。

3. 清掃作業歩掛

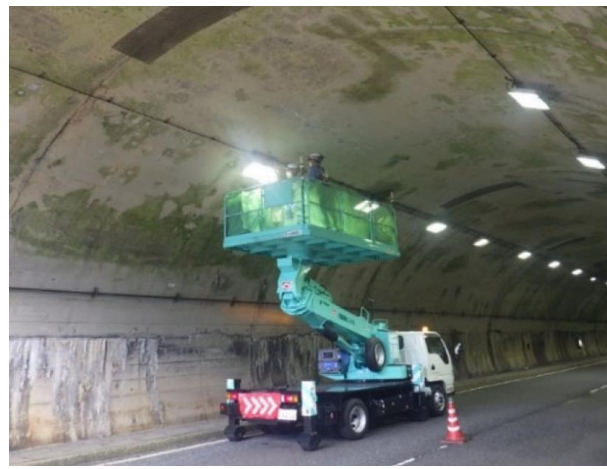
清掃作業歩掛は、次表を標準とする。

表3.1 清掃作業歩掛 (照明灯100灯当り)

| 名称 | 規格 | 単位 | 表面清掃 | 表面及び内面清掃 |
|---------|---|----|------|----------|
| 土木一般世話役 | | 人 | 0.4 | 0.6 |
| 普通作業員 | | 人 | 1.4 | 2.2 |
| 高所作業車運転 | トラック架装・伸縮ブーム・プラットフォーム型・作業床高9.9m・積載荷重1,000kg | 日 | 1.1 | 2.1 |
| 諸雑費率 | | % | 5 | 5 |

(注)1. 諸雑費は、洗剤、ウエス、ブラシ等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

2. 高所作業車は、賃料とする。



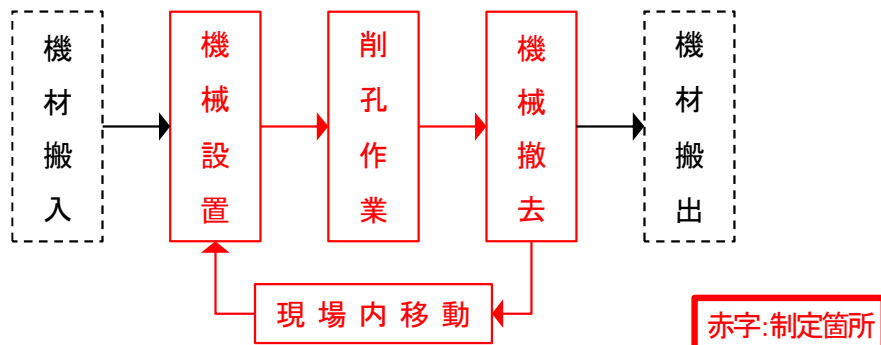
人力施工状況高所作業車(トラック架装)伸縮ブーム・プラットフォーム型



人力施工状況(内面清掃)

刃先にダイヤモンド砥粒が埋め込まれたダイヤモンドビットを高速回転させることでアスファルト舗装版をせん孔し、ガードレールの支柱を建て込むための孔あけ等を行う工法である。

【施工フロー】



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

【主な制定概要】

- ・ ガードレールの支柱建込用の孔あけ等を目的とした、アスファルト舗装版の削孔作業を新たに制定
- ・ 削孔径60mmを超え200mm以下、削孔深400mm以下の場合に適用

3. 機種の設定
機械・規格は次表を標準とする。

表3.1 機種の設定

| 名称 | 規格 | 単位 | 数量 |
|-----------|--------------------------|----|----|
| コンクリート穿孔機 | 電動式コアボーリングマシン・最大穿孔径φ25cm | 台 | 1 |

4. 施工歩掛
(1) 施工歩掛は次表を標準とする。

表4.1 削孔歩掛 (100孔当り)

| 名称 | 規格 | 単位 | 数量 |
|-----------|--------------------------|----|-----|
| 土木一般世話役 | | 人 | 1.0 |
| 特殊作業員 | | 〃 | 2.0 |
| 普通作業員 | | 〃 | 2.0 |
| ダイヤモンドビット | 各種 | 個 | 2.0 |
| コンクリート穿孔機 | 電動式コアボーリングマシン・最大穿孔径φ25cm | 日 | 2.6 |
| 諸雑費率 | | % | 12 |

- (注) 1. 諸雑費は、チューブ、アダプター、電力に関する経費、集塵機、集水機等の費用であり、労務費、材料費、機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
2. 足場が必要な場合、舗装版削孔時に発生する濁水の運搬及び処理費が必要な場合は別途計上する。



コンクリート穿孔機全景



削孔作業状況

週休2日の標準化に伴う機械損料数量の改定

■ 週休2日標準化に伴う機械稼働実態の確認

- ▶ 建設現場における週休2日の取組みが進展、直轄工事においては工期全体での週休2日が標準化。
- ▶ その結果、週休2日工事においては、現行の標準歩掛と比較して、建設機械の供用日数が延びていることが確認された。

※供用日数 …… 建設機械を現場に存置する日数

■ R6土木工事標準歩掛改正

各歩掛の機械損料数量を見直し〔該当工種は別紙参照〕

- ▶ 今後、標準歩掛の諸数値は、週休2日工事を前提として見直し。

例：安定処理工（自走式土質改良工）

| 機械名 | 規格 | 適用単価表 | 指定事項 |
|----------|-----------------------|-------|----------------------|
| 自走式土質改良機 | 解破・固化材混合式 機械質量20t級 | 機—24 | 燃料消費量 → 122 |
| | | | 機械損料数量 → <u>1.82</u> |
| | | | 指定事項 |
| | | | 燃料消費量 → 122 |
| | | | 機械損料数量 → 1.84 |

週休2日の標準化に伴う機械損料数量の改定〔別紙〕

- 安定処理工(自走式土質改良工)
- 軟弱地盤処理工
 - ・スラリー攪拌工
 - ・PVD工(プラファブリケイティッドバーチカルドレーン工)
 - ・中層混合処理工
- 骨材再生工(自走式)
- 鋼管・既製コンクリート杭打工
 - ・パイルハンマ工
 - ・中掘工
 - ・回転杭工
- 場所打杭工
 - ・全回転型オールケーシング工
 - ・アースオーガ工・硬質地盤用アースオーガ工
 - ・大口径ボーリングマシン工
 - ・ダウンザホールハンマ工
- 深礎工
- 鋼管矢板基礎工
 - ・打撃工法
 - ・中掘工法
- 鋼矢板(H形鋼)工
 - ・バイブロハンマ工
 - ・油圧圧入引抜工
- 鋼矢板工(アースオーガ併用圧入工)
- 鋼矢板(H形鋼)工(クレーン引抜工)
- 仮橋・仮栈橋工
- 仮囲い設置・撤去工(雪寒仮囲い工)
- 消波工
- 浚渫工
 - ・バックホウ浚渫船
 - ・バックホウ浚渫船(ICT)
- 砂防コンクリート工(コンクリート工)
- 集水井工(ライナープレート土留工法)
- 地すべり防止工山腹水路工
- グースアスファルト舗装工
- 連続鉄筋コンクリート舗装工
- 防護柵設置工(ワイヤロープ設置工)
- 路面切削工(切削オーバーレイ工)
- 道路打換え工
- 路上路盤再生工
- 共同溝工共同溝工(2)
- トンネル工(NATM)
 - ・トンネル工(NATM)(発破工法)
 - ・トンネル工(NATM)(機械掘削工法)
 - ・トンネル濁水処理工
- 小断面トンネル工(NATM)
- ポストテンション場所打ホロースラブ橋工
- ポストテンション場所打箱桁橋工
- 橋台・橋脚工(橋台・橋脚工(1)(構造物単位))

【参考】機械損料数量

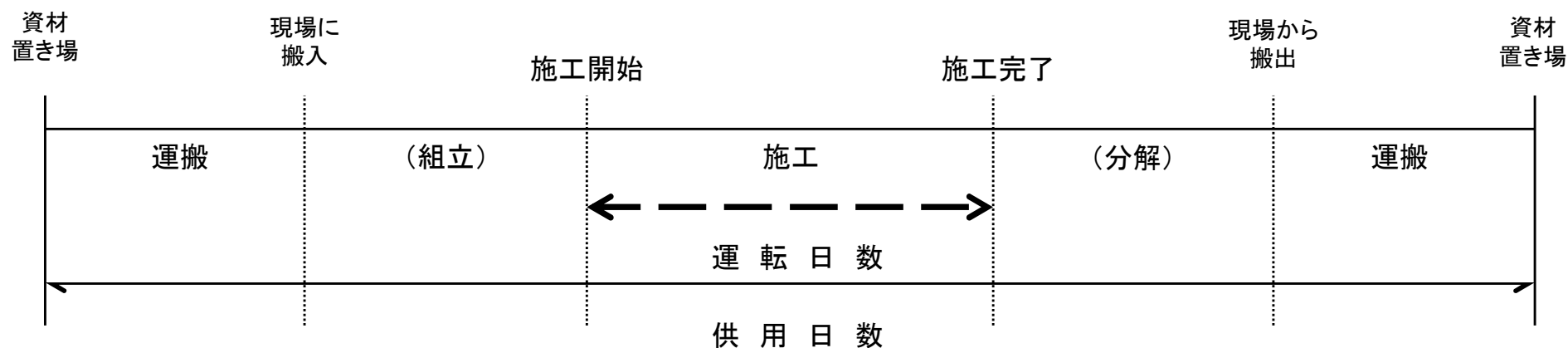
■機械経費（損料）の積算方法

➤機械経費の積算＝1台当たりの損料×積算上の供用日数

・ 損料単価＝施工業者等が建設機械を自社で保有し使用するために必要な経費

・ 積算上の供用日数＝積算上の運転日数 × **機械損料数量**

(施工合理化調査で設定)



・ 機械損料数量は、施工合理化調査の結果で、各工種毎に個別に設定

$$\text{機械損料数量} = \text{供用日数} / \text{運転日数}$$